

平成27年度 東蒲原郡社会科部 活動報告

部長 金子 順一

1 研究主題

子ども同士のかかわり合いの中で考えを深めていく社会科授業の工夫

2 研究の概要

第1回（4月）…活動計画立案

第2回（5月）…地域巡検「阿賀町クリーンセンター」「奥阿賀ふるさと館」等

第3回（6月）…東蒲原郡森林組合見学

第4回（8月）…指導案検討会

第5回（9月）…授業研究 「これからの食料生産」

授業者：阿賀町立三川小学校 5学年担任 近藤 克人 教諭

指導者：県立教育センター指導主事 須貝 学 様

3 研究の実際

(1) 地域巡検

阿賀町クリーンセンターでは、ごみ収集車の洗浄の際の水の外部流出防止施設、焼却後の灰の塩分を活用した農薬や融雪剤の製造など、ごみ処理に伴う環境保全の工夫を教えていただいた。その他、将軍杉、奥阿賀ふるさと館など地域の学習素材として多く取り上げられる所を実際に見ながら、学習での活用などを検討した。

(2) 東蒲原郡森林組合見学

上川地区高出の作業現場で間伐作業の見学をした。間伐は、日当たりをよくする、災害に強い林にするなどを目的に行われていることや安全面に気を付けて作業していることなど、学習に参考になる話を多く聞くことができた。

その後、森林組合事務所で、阿賀町の林業の歴史や森林利用などについて教えていただいた。森林保全に携わる人の高齢化、杉材の販売価格の低下など、林業の抱える課題もあるが、町の貴重な資源として活用していきたいという説明に担当者の林業に対する熱意を感じた。また、町に関する学習や5年生の林業の学習に関して、どのような資料があるか、体験ができるかなどを話し合った。



(3) 授業研究 5年生「これからの食料生産」

食料輸入は日本にとって良いことか悪いことかをグループ内で生産者と消費者の立場に分かれ、検討することを通して、今後の食料生産について考えさせる授業であった。話し合い活動では、根拠とする資料をもとに生産者、消費者の立場に立ち、食料輸入のよさや問題点を出し合うことができた。

協議会では話し合いを活性化させる手立てについて意見交換がなされた。また、県立教育センター須貝指導主事からは輸入の学習を発展させることが国際理解教育につながる可能性があることや、提示する資料の重要性についてご指導をいただいた。

4 成果と課題

(1) 成果

地域巡検では、阿賀町クリーンセンターや森林組合の方から施設の工夫や森林保全のための努力等を伺うことができた。両施設とも学習内容に関連しており、授業改善のための大きな示唆をいただいた。また、授業研究では、県立教育センター須貝指導主事よりご指導をいただくことができた。話し合いを活性化するには、根拠となる資料や事象の提示や資料等を生かした説明の方法の習得が重要であることを学ぶことができた。

(2) 課題

地域巡検では、間伐の現場見学など貴重な経験をさせていただいた。今後は、その内容をどのように授業に取り入れていくかなど、社会科部としての提案をまとめ、広めていく手立てを考えなければならない。